

í2Lμ

& ÂLê	q' <	ðÁ(iyM-Lêtr ^{-½} y±î
	1	
	3	
	3	
	2	
	1	
	5	
	30	
	2	
	4	
	4	
	4	
	1	
	2	
	1	
	4	
û{/	67	

授 業 名	関係法規・制度				
担 当 教 員 名	三浦理図務	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実務経験	無し				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「関係法規・制度」及び理容科は「理容師関係法令集」、美容科は「美容師関係法令集」を使用する。 この授業は、国家資格を取得し理容の業又は美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要な法令について修得をする。				
授業の到達目標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる法的知識の修得。 理容師法・美容師法に関連する衛生法規の内容を体系的に理解し、確実に国家試験の「関係法規・制度」において確実に合格できる実力を身に付けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	法制度の概要（人と社会生活、法とは何か）				1
2.	法の形式（憲法と日本の法令体系、条約、法律、命令、自治法規）				1
3.	法制度の概要及び法の形式のまとめ				1
4.	衛生行政の概要（衛生法規の意義、衛生法規の分類と生活衛生法規）				1
5.	衛生行政の意義と歴史（行政とは何か、衛生行政の意義、衛生行政の歴史）				1
6.	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容（衛生行政の分類、生活衛生行政）				1
7.	衛生行政を担う行政機関（一般衛生行政の仕組み、厚生労働省の役割）				1
8.	衛生行政を担う行政機関（都道府県及び市町村の役割、保健所の役割と機構）				1
9.	衛生行政のまとめ				1
10.	理容師法・美容師法の目的				1
11.	理容師法・美容師法の用語の定義（理容・美容、理容師・美容師、理容所・美容所）				1
12.	理容師・美容師に関する規定（概要）				1
13.	理容師・美容師に関する規定（養成施設の入所資格、養成施設、試験、免許と登録）				1
14.	理容師・美容師に関する規定（義務、業務停止、免許取消及び再免許）				1
15.	理容師・美容師に関する規定（管理理容師・管理美容師）				1
16.	理容所・美容所に関する規定（開設者が講ずべき衛生措置）				1
17.	理容所・美容所に関する規定（理容所・美容所以外での業務）				1
18.	理容所・美容所に関する規定（立入検査と環境衛生監視員）				1
19.	理容所・美容所に関する規定（概要、理容所・美容所の開設）				1

20.	理容所・美容所に関する規定のまとめ	1
21.	違反者等に対する行政処分（違反者等に対する行政処分）	1
22.	違反者等に対する行政処分（不利益処分を行う場合の手続き）	1
23.	違反者等に対する行政処分（違法または不当な処分等についての審査請求）	1
24.	行政処分のまとめ	1
25.	罰則（理容業・美容業の運営に関連する法律）	1
26.	罰則（理容業・美容業の衛生に関連する法律）	1
27.	罰則（理容業・美容業の消費者保護に関連する法律）	1
28.	罰則のまとめ	1
29.	関連法規、令体、参考資料、フォローアップ	1
30.	全体（重要項目主体に）フォローアップ	1

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

【関係法規・制度】の教科書を授業計画に従って授業前に1コマ分を読んでおくこと。
授業後は復習を行うこと。

使用テキスト

書籍名	出版社
関係法規・制度	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容師法関係法令集（理容科）	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容師法関係法令集（美容科）	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、法規改正、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

授業での法律や使われる多くの語句が、高校までに学習していないものです。
そのために予習と復習を行い授業内容をその都度理解していく積み重ねが必要です。

授 業 名	衛生管理（公衆衛生、環境衛生）				
担 当 教 員 名	東日向子	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必修・選択	必修	授業区分	講義
実 務 経 験	有り：看護師として勤務				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、美容師免許を取得して理容の業や美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要な法令について修得をする。				
授業の到達目標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 理容の業や美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、理容所・美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に付けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	公衆衛生	公衆衛生の概要（公衆衛生の意義と課題）			1
2.	公衆衛生	公衆衛生発展の歴史（欧米と我が国の公衆衛生、消毒法の歴史）			2
3.	公衆衛生	理容師・美容師と公衆衛生（歴史の中の公衆衛生）			2
4.	公衆衛生	理容師・美容師と公衆衛生（公衆衛生と理容師・美容師）			3
5.	公衆衛生	保健所と理容・美容（母子保健、成人・高齢者保健、精神保健）			3
6.	公衆衛生	公衆衛生のまとめ			2
7.	環境衛生	概要（環境衛生の内容、環境衛生の目的と意義、環境衛生活動）			1
8.	環境衛生	空気環境（空気と健康、温度・湿度・気流（風）と健康）			2
9.	環境衛生	環境衛生	衣服・住居の衛生（衣服の衛生、住居の衛生）		2
10.	環境衛生	上・下水道と廃棄物（上水道、下水道、廃棄物）			2
11.	環境衛生	衛生害虫とネズミ（衛生害虫、ネズミ）			2
12.	環境衛生	環境保全（水質汚濁）			2
13.	環境衛生	環境衛生のまとめ			2
14.	公衆衛生を主体にフォローアップ（国家試験対策）				2
15.	環境衛生を主体にフォローアップ（国家試験対策）				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					

【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。

使用テキスト

書籍名

出版社

衛生管理

公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

学習した衛生の知識を、日々の生活や実技をともなう授業において、意識的に実践することで衛生観念を身につけてほしい。

授 業 名	衛生管理（感染症）				
担 当 教 員 名	東日向子	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必修・選択	必修	授業区分	講義
実 務 経 験	有り：看護師として勤務				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、美容師免許を取得して理容の業や美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要な法令について修得をする。				
授業の到達目標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 理容の業や美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、理容所・美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に付けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	感染症	人と感染症（感染症発見の歴史、感染症と法律、感染症の分類）			2
2.	感染症	病原微生物（微生物の種類、微生物の形と大きさ）			2
3.	感染症	病原微生物（微生物の構造、微生物の増殖と環境の影響）			2
4.	感染症	感染症の予防（微生物の病原性と感受性、汚染、感染及び発病）			3
5.	感染症	感染症の予防（常在細菌叢、免疫と予防接種）			2
6.	感染症	感染症の予防（感染症発生の要因、感染症予防の3原則）			2
7.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（空気・飛沫を介して感染）		2
8.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（飲食物を介して感染する感染症）		2
9.	感染症	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（血液等を介して感染）	2
10.	感染症	理容・美容と感染症	主な感染症（動物・節足動物を介して感染）		2
11.	感染症	理容・美容と感染症	対策（標準予防策、咳のある客への対応）		2
12.	感染症	理容・美容と感染症	対策（病変の皮膚をもつ客、嘔吐をした客へ）		2
13.	感染症	感染症のまとめ			2
14.	全体フォローアップ（国家試験対策）				3
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					

【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。

使用テキスト

書籍名

出版社

衛生管理

公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

学習した衛生の知識を、日々の生活や実技をともなう授業において、意識的に実践することで衛生観念を身につけてほしい。

授 業 名	衛生管理（衛生管理技術）				
担 当 教 員 名	東日向子	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義
実 務 経 験	有り：看護師として勤務				
授業の概要	教科書は日本理容美容センター出版の「衛生管理」を使用する。 この授業は、美容師免許を取得して理容の業や美容の業を行うにあたり必要な衛生法規から美容所を開設する場合に必要な法令について修得をする。				
授業の到達目標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる衛生知識の修得。 理容の業や美容の業を行うにあたり適切な衛生管理が行えるよう公衆衛生・環境衛生、感染症の3分野を体系的に関連づけて理解し、理容所・美容所での衛生環境を保てる知識と実力を身に付けさせることを到達目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	消毒法総論	消毒とは（病原微生物と非病原微生物、消毒の原理）			1
2.	消毒法総論	消毒の意義（汚染、感染、発病と消毒の意義、殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義）			1
3.	消毒法総論	業務と消毒との関係（関連法規、消毒を怠った場合の危険性と責任）			1
4.	消毒法総論	消毒法と適用上の注意（消毒法の種類、消毒（殺菌）に必要な条件）			1
5.	消毒法総論	消毒法と適用上の注意（病原微生物の抵抗力、消毒薬の使用、保存上の注意）			1
6.	消毒法各論	理学的消毒法（紫外線消毒、煮沸消毒、蒸気消毒、その他の理学的消毒法）			1
7.	消毒法各論	化学的消毒法（アルコール類、塩素剤、界面活性剤、グルコン酸クロルヘキシジン）			1
8.	消毒法各論	すぐれた消毒法（すぐれた消毒法の条件、消毒を行う際の注意事項）			1
9.	消毒法実習	各種消毒薬（消毒薬の概要、器具の使い方）			1
10.	消毒法実習	各種消毒薬（常備しておくよい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈法）			1
11.	消毒法実習	理容所・美容所の消毒の実際（理容所・美容所における消毒の原則）			1
12.	消毒法実習	理容所・美容所の消毒の実際（理容所・美容所の消毒設備、器具類の消毒法）			1
13.	消毒法実習	理容所・美容所の消毒の実際（手指の消毒、その他の消毒、消毒の現状）			1
14.	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際（清潔保持、洗剤による清浄法、洗い場の構造）			1
15.	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際（刈毛の処理、汚物箱の消毒、ハエや蚊の駆除）			1
16.	消毒法実習	理容所・美容所の清潔法の実際			1
17.	理容・美容器具、布片などの消毒法（実例）				1
18.	理容師法指定規則・美容師法指定規則で規定されている消毒法				1
19.	公衆衛生、環境衛生、感染症のそれぞれの視点で考える衛生管理技術				1

20.	消毒法総論を主体にフォローアップ	2
21.	消毒法各論を主体にフォローアップ	2
22.	消毒法実習を主体にフォローアップ	2
23.	全体（重要項目主体に）フォローアップ	2
24.	【国家試験対策】衛生管理の全分野をからめた問題演習と解答・解説	3
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【衛生管理】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
衛生管理	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年で学習した「公衆衛生・環境衛生」、「感染症」及び2年で学ぶ「衛生管理技術」を一体的に理解し、正しい衛生観念を身につけ、理容師試験・美容師試験に合格して欲しい。 卒業後、従事するであろう理容所・美容所において実践していくことが大切である。		

授 業 名	保健1（人体の構造及び機能）				
担 当 教 員 名	三浦理図務	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「保健」を使用する。 この授業は、理容の業や美容の業を行うにあたり必要な人体の構造及び機能について学習するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる保健分野の知識を得ること。 理容・美容の業を行うにあたり人体の構造と機能を理解し施術できるようにする。				
授 業 計 画					コマ数
第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学					3
1.	1項 人体各部の名称				
2.	2項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学				
第2章 骨格器系					3
3.	1項 骨の種類と構造				
4.	2項 骨の連結				
5.	3項 骨格器系とそのはたらき				
第3章 筋系					3
6.	1項 筋の種類とその特徴				
7.	2項 主な骨格筋とそのはたらき				
8.	3項 表情筋と表情運動				
第4章 神経系					3
10.	1項 神経系の成り立ち				
11.	2項 中枢神経系とそのはたらき				
12.	3項 末梢神経系とそのはたらき				
第5章 感覚器系					4
13.	1項 視覚				
14.	2項 聴覚				
15.	3項 平衡感覚				
16.	4項 味覚				
17.	5項 嗅覚				
18.	6項 皮膚感覚				
第6章 血液と免疫系					

19.	1項 血液のあらまし	4
20.	2項 血液循環の仕組み	
21.	3項 血液の循環経路	
第7章 循環器系		
24.	1項 心臓のあらまし	3
25.	2項 血液循環の仕組み	
26.	3項 血液の循環経路	
27.	4項 リンパ管系の仕組みとはたらき	
第8章 呼吸器系		
28.	1項 呼吸器系のあらまし	3
29.	2項 気道	
30.	3項 肺の仕組みとガス交換	
31.	4項 呼吸運動	
第9章 消化器系		
32.	1項 消化器系のあらまし	4
33.	2項 消化管の仕組み	
34.	3項 消化管のはたらき	
35.	4項 消化と物質代謝	
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【保健】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
保健	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
さまざまな施術を行うにあたり、人体の構造を理解しホメオスタシスを向上させる手助けができるような意識づけレベルになって欲しい。		

授 科 目 業 名	保健2（皮膚科学）				
担 教 員 当 名	三浦理図務	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「保健」を使用する。 1年生で学んだ人体の構造及び機能のうち、もっとも関係が深い「皮膚科学」の分野に特化して学習するものである。				
授 業 の 到 達 標 目	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる保健分野の知識を得ること。 理容・美容の業を行うにあたり皮膚の構造から機能や恒常性に至るまで、施術に必要な知識を確実に身につけること。				
授 業 計 画					コマ数
1.	第1章 皮膚の構造				6
	表面、断面、表皮、表皮と真皮の境、真皮、皮下組織、皮膚の部位差				
2.	第2章 皮膚付属器官の構造				6
	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪				
3.	第3章 皮膚の循環器系と神経系				4
	皮膚の血管、皮膚のリンパ管、皮膚の神経、				
4.	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能				8
	対外保護、体温調節、知覚と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、				
	免疫・解毒・排除、再生、毛のはたらき、爪のはたらき				
5.	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健				12
	全身状態、精神、栄養、嗜好品、体内病変、水分と脂、				
	付属器官とホルモン、毛の保護と手入れ、爪の保護と手入れ、皮膚トラブル				
6.	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患				24
	皮膚の異常とその種類、皮膚疾患の原因、皮膚疾患の治療法				
	皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹、口唇の疾患、				
	温熱・寒冷による皮膚障害、角化異常による皮膚疾患				
	色素異常による皮膚疾患、血管腫（アカアザ）				
	脂腺母斑、下肢静脈瘤、分泌異常、化膿菌、ウイルス、真菌				

衛生害虫、感染症の皮膚疾患の予防、毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解
(定期試験, 授業内テスト)

2. 関心・意欲・態度
(課題提出など)

3. 出席状況
(受講意欲、思考と演習など)

ウエイト 1.5

ウエイト 1

ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

【保健】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。

使用テキスト

書籍名

出版社

保健

公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

皮膚の構造と機能などを十分に理解し、お客様の状況に応じた対応ができる知識を身に付けて欲しい

授 業 名	香粧品化学 1				
担 当 教 員 名	河岸重則・社川武弘	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義
開 講 時 期	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「香粧品化学」を使用する。 この授業は、美容師免許を取得して理容の業や美容の業を行うにあたり必要な香粧品の知識を身に着け、安全に使用することができるようにするものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる香粧品化学の知識を得ること。 理容・美容の業を行うにあたり香粧品を安全に使用できるようになること。				
授 業 計 画					コマ数
1章 香粧品概論					
1.	1節	香粧品の社会的意義と品質特性			1
2.	2節	香粧品の規制			3
3.	3節	香粧品の安定性と取り扱い上の注意			2
4.	4節	香粧品と安全性			2
2章 香粧品用原料					
5.	1節	香粧品の対象となる人体各部の性状			3
6.	2節	水性原料			1
7.	3節	油性原料			3
8.	4節	界面活性剤			3
9.	5節	高分子化合物			3
10.	6節	色材			2
11.	7節	香料			2
12.	8節	その他の配合成分			2
13.	9節	ネイル、まつ毛エクステンション用材料			3
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)					

<p>理容実習・美容実習の授業の中で、さまざまな化粧品を使用することになる。 実技系の授業においては、化粧品を安全に使用することを考え、日々実践して欲しい。</p>	
<p>使用テキスト</p>	
<p>書籍名</p>	<p>出版社</p>
<p>化粧品化学</p>	<p>公益社団法人日本理容美容教育センター</p>
<p>参考書又は参考資料等</p>	
<p>授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。</p>	
<p>そ の 他（生徒への要望等）</p>	
<p>日々の生活や実技をともなう授業において、常に安全な化粧品の取り扱いを意識的し、実践して欲しい。</p>	

授 科 目 業 名	香粧品化学2				
担 教 員 当 名	河岸重則・社川武弘	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
開 講 時 期	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「香粧品化学」を使用する。 この授業は、美容師免許を取得して理容の業や美容の業を行うにあたり必要な香粧品の知識を身に着け、安全に使用することができるようにするものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる香粧品化学の知識を得ること。 理容・美容の業を行うにあたり香粧品を安全に使用できるようになること。				
授 業 計 画					コマ数
3章 基礎香粧品					
1.	1節 皮膚清浄用香粧品				2
2.	2節 化粧水				1
3.	3節 クリーム・乳液				3
4.	4節 その他の基礎香粧品				1
4章 メイクアップ用香粧品					
5.	1節 メイクアップ用香粧品の種類と剤形				1
6.	2節 ベースメイクアップ香粧品				3
7.	3節 ポイントメイクアップ香粧品				4
5章 頭皮・毛髪用香粧品					
8.	1節 シャンプー剤				2
9.	2節 スタイリング剤				3
10.	3節 パーマ剤				3
11.	4節 ヘアカラー製品				3
12.	5節 育毛剤				2
6章 芳香製品と特殊香粧品					
13.	1節 芳香製品				1

14.	2節 特殊化粧品	1
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲, 思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
理容実習・美容実習の授業の中で、さまざまな化粧品を使用することになる。 実技系の授業においては、化粧品を安全に使用することを考え、日々実践して欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
化粧品化学	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、法改正、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
日々の生活や実技をともなう授業において、常に安全な化粧品の取り扱いを意識的し、実践して欲しい。		

授 科 目 業 名	運営管理				
担 教 員 当 名	後藤廣一朗	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	有り：理美容店経営				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「運営管理」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり知っておくべき、必要な知識を習得するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できるだけの「経営」についての知識を修得すること。ひいては、就職してから「従業員」としてマネージメントのキャリアをスタートするが、経営者として成長していくために必要な基礎的知識の修得を目指す。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	・経営が必要とされる理由 ・継続が難しい理由 ・経営とは何か				1
2.	・経営資源と経営計画 ・経営戦略 ・経営戦略が目指すもの				2
3.	・業界の概要 ・競争の変化				1
4.	・サービスとしての理容・美容 ・理容業・美容業の顧客について				1
5.	・資金管理の重要性 ・収支と損益 ・会計の考え方 ・コストを管理する				2
6.	・税金について				1
7.	・人という資源 ・人の能力を高める ・人をやる気にさせるために				2
8.	・給与 ・待遇・福利厚生 ・労働者の権利				2
9.	・健康管理の基礎 ・理容・美容の仕事と健康				2
10.	・理容業・美容業に特徴的な健康課題 ・作業環境に関する健康問題				2
11.	・社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任				1
12.	・社会保険（公的年金、医療保険、労働保険）				2
13.	・キャリアプランの重要性 ・仕事をするうえで考えるべきこと				1
14.	・顧客が求める価値 ・価値の実態				1
15.	・顧客満足の実現のためのシステム ・最も重要な価値：人				1
16.	・価値の多様性 顧客が求めるもの ・サービスの範囲				1
17.	・理容業・美容業のマーケティング ・マーケティング・ミックス				1
18.	・マーケティング・ミックスの要因 短期的要因 長期的要因				2
19.	・サービスのシステム化 ・接客についての理解 ・よい接客のために				2

20.	・接客の実践①～⑤	・接客におけるトラブルと対応	2
評価の3観点とウエイト			
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲, 思考と演習など)	
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1	
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)			
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。			
使用テキスト			
書籍名		出版社	
運営管理		公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等			
授業中に適宜、その他資料を配布する。			
そ の 他 (生徒への要望等)			
理容店・美容店を守り、発展させていくために必要な知識や技能は多岐にわたっている。 この授業では基本的な知識や方法を学ぶのだが、これらを将来、顧客のために具体的に実践しながら学び発展させていくことを望んでいる。			

授 科 目 業 名	理容技術理論 1				
担 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗 安部敏亮	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	有り：理容師として勤務				
授 業 の 概 要	優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、合理的な方法によって実践されなければならない。理容技術理論を学ぶ目的は理容技術の習得を容易にすることである。				
授 業 の 到 達 目 標	理容技術理論を体系的に理解し、技術習得において、理論的に考えて実践できるようにすることが目標である。また、国家試験の「理容技術理論」において確実に合格できるまでの実力を身に着けることが到達目標である。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	序章 ・ 理容技術理論を学ぶにあたって ・ 理容技術				1
2.	理容技術の基礎 ・ 人体各部の名称 ・ 理容技術姿勢 ・ 理容技術とトレーニング				8
3.	理容用具 ・ 理容と用具 ・ 理容用具と衛生				2
4.	理容用具 ・ 理容刃物 ・ シザーズ ・ レザー				2
5.	理容用具 ・ クリッパー ・ コーム ・ ブラシ				4
6.	理容用具 ・ ヘアアイロン ・ ヘアドライヤー ・ その他の器具				3
7.	理容用具を主体にフォローアップ（国家試験対策）				2
8.	ヘアデザイン ・ ヘアスタイリング ・ ヘアデザインの要素 ・ ヘアスタイル				4
9.	ヘアカッティング ・ ヘアカッティングを学ぶにあたって ・ 観測法				2
10.	ヘアカッティング ・ 基本原則 ・ 一般的手順				2
1.	ヘアカッティング ・ スタンダードヘアの概要 ・ 用具の持ち方と操作				4
2.	ヘアカッティング ・ スタンダードヘアのカット技法				3
3.	ヘアカッティング ・ スタンダードヘアのスタイル別カットシステム				4
4.	ヘアカッティング ・ デザインヘア				4
5.	ヘアカッティング ・ デザインヘアのスタイル別カットシステム				1
6.	ヘアカッティングを主体にフォローアップ（国家試験対策）				2
7.	ヘアカッティング ・ デザインヘアカットの一例 ・ レディースカットの一例				4
8.	ヘアセッティング ・ 学ぶにあたって ・ ヘアセッティングの種類				1
9.	ヘアセッティング ・ ヘアセッティングの実際				4
10.	ヘアセッティング ・ レディースヘアのスタイリング				1

11.	ヘアセッティングを主体にフォローアップ（国家試験対策）	2
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容技術理論Ⅰ・Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
① 国家試験に合格できる知識を確実に習得してほしい。 ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。 ③ この技術理論を確実に身に着けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。		

授 業 名	理容技術理論2				
担 当 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗 安部敏亮	学 年	2	単 位 数	3
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	有り：理容師として勤務				
授 業 の 概 要	優れた理容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、合理的な方法によって実践されなければならない。理容技術理論を学ぶ目的は美容技術の習得を容易にすることである。				
授 業 の 到 達 目 標	理容技術理論を体系的に理解し、技術習得において、理論的に考えて実践できるようにすることが目標である。また、国家試験の「理容技術理論」において確実に合格できるまでの実力を身に着けることが到達目標である。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	ヘアカラーリング ・ヘアカラーの歴史・色相の原理				5
2.	ヘアカラーリング ・染毛剤の種類と原理 ・安全性と取り扱い上の注意				6
3.	ヘアカラーリング ・技術のプロセス ・おしゃれ染め、白髪染めの一例				7
4.	ヘアカラーリング ・その他の技法				3
5.	ヘアカラーリングを主体にフォローアップ（国家試験対策）				1
6.	シェービング ・シェービングを学ぶにあたって				2
7.	シェービング ・シェービングの要件 ・基本技術と要領 ・プロセス				9
8.	シェービング ・メンズフェイスシェービング ・メンズネックシェービング				5
9.	シェービング ・グルーミング ・レディースシェービング				2
10.	シェービングを主体にフォローアップ（国家試験対策）				1
11.	理容エステティック ・理容エステティックを学ぶにあたって				1
12.	理容エステティック ・スキンケア ・フェイシャル ・ハンド ・フット				6
13.	理容エステティック ・理容アロマセラピー				1
14.	理容エステティックを主体にフォローアップ				1
15.	理容クリニック ・学ぶにあたって ・カウンセリング				2
16.	理容クリニック ・トリートメント ・ヘアケア・スカルプケア				4
17.	理容クリニック ・毛髪の基礎知識 ・ヘアチェック（毛髪診断）				5
18.	理容クリニック ・頭皮の基礎知識 ・スカルプチェック（頭皮診断）				4
19.	理容クリニック ・ヘアクリニックの用具 ・ウィッグ				2

20.	理容クリニックを主体にフォローアップ（国家試験対策）	1
21.	シャンプーイング&リンシング ・シャンプーの方法と技法 ・リンシング	5
22.	シャンプーイング&リンシングを主体にフォローアップ（国家試験対策）	1
23.	理容マッサージ ・マッサージの意義と効果 ・マニピュレーション	2
24.	理容マッサージ ・ヘッドマッサージの一例 ・クリニックマッサージの一例	4
25.	理容マッサージを主体にフォローアップ（国家試験対策）	1
26.	ヘアトリートメント ・種類 ・ヘアトリートメントの一例	3
27.	スカルプトリートメント ・種類 ・スカルプトリートメントの一例	5
28.	スカルプトリートメントを主体にフォローアップ（国家試験対策）	1

評価の3観点とウエイト

1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）	2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）	3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。
授業後はワークブック（問題集）を活用し、確実に学習する習慣をつけて欲しい。

使用テキスト

書籍名	出版社
理容技術理論①	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容技術理論②	公益社団法人日本理容美容教育センター
美容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター
ワークブック	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 国家試験に合格できる知識を確実に習得してほしい。
- ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。
- ③ この技術理論を確実に身に着けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。

授 業 名	文化論1（理容科）				
担 当 教 員 名	後藤廣一朗 向井美香	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「文化論」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり知っておくべき、理容美容の文化史から資格制度の変遷などを学ぶものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる理容業・美容業の歴史と文化の修得。 自分たちがたづさわることとなる理容の業や美容の業の文化史を体系的に学び国家試験に合格できる知識の修得を目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1.	日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の登場			2
2.	日本の理容業・美容業の歴史	江戸時代の理容業・美容業			2
3.	日本の理容業・美容業の歴史	近代の理容業・美容業			2
4.	日本の理容業・美容業の歴史	現代の理容業・美容業			2
5.	日本の理容業・美容業の歴史	日本の理容業・美容業の歴史年表			2
6.	ファッション文化史 日本編	縄文・弥生・古墳時代			2
7.	ファッション文化史 日本編	古代（飛鳥・奈良・平安時代）			2
8.	ファッション文化史 日本編	中世（平安末・鎌倉・室町・戦国時代）			2
9.	ファッション文化史 日本編	近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代）			2
10.	ファッション文化史 日本編	近世Ⅱ（江戸時代）			2
11.	ファッション文化史 日本編	近代（明治・大正・昭和20年まで）			2
12.	ファッション文化史 日本編	現代Ⅰ（1945年～1950年代）			2
13.	ファッション文化史 日本編	現代Ⅱ（1960年代～1970年代）			2
14.	ファッション文化史 日本編	現代Ⅲ（1980年代～1990年代）			2
15.	ファッション文化史 日本編	現代Ⅳ（2000年代以降）			2

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲, 思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
文化論	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
1年では主に日本での理容・美容の文化史を学習する。2年時には世界へと範囲が広がる。古代から学び始め、最後には日本と世界の文化が融合していくため、日本での文化の歩みを学び、2年時には世界の流れとを照らし合わせながら学んでほしい。		

授 業 名	文化論2（理容科）				
担 当 教 員 名	後藤廣一朗 向井美香	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	講 義
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「文化論」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり知っておくべき、理容美容の文化史から資格制度の変遷などを学ぶものである。				
授 業 の 到 達 目 標	「理容師試験」「美容師試験」に合格できる理容業・美容業の歴史と文化の修得。 自分たちがたづさわることとなる理容の業や美容の業の文化史を体系的に学び国家試験に合格できる知識の修得を目標とする。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	ファッション文化史 西洋編 古代エジプト・ギリシャ・ローマ				2
2.	ファッション文化史 西洋編 古代ゲルマン・中世ヨーロッパ				2
3.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅰ（16世紀）				2
4.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅱ（17世紀）				2
5.	ファッション文化史 西洋編 近世Ⅲ（18世紀）				2
6.	ファッション文化史 西洋編 近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め）				2
7.	ファッション文化史 西洋編 近代Ⅱ（19世紀）				2
8.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅰ（1910年代～1920年代）				2
9.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅱ（1930年代～1940年代前半）				1
10.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅲ（1940年代後半～1950年代）				2
11.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅳ（1960年代）				2
12.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅴ（1970年代）				2
13.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅵ（1980年代）				2
14.	ファッション文化史 西洋編 現代Ⅶ（1990年代～2010年）				1
15.	ファッション文化史 西洋編 まとめ 演習問題と解答解説				1
16.	礼装の種類和装の礼装				1
17.	礼装の種類洋装の礼装				1
18.	礼装の種類のおまとめ、演習問題と解答解説				1

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
【文化論】の教科書を授業計画に従って授業前に読んでおく。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
文化論	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
1年で学習した日本の理容・美容の文化史と世界の文化史を照らし合わせて、楽手をすすめてほしい。 文化論、国家試験に出題される科目である。各時代ごとの特徴を分類し学習すること。 なお、礼装の種類も男性女性、和装と洋装についても見落としなく学習すること。		

授 科 目 業 名	理容実習 1				
担 当 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗 安部敬亮	学 年	1	単 位 数	16
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習
実 務 経 験	有り：理容師として勤務				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「理容実習ⅠⅡ」及び「理容技術理論ⅠⅡ」を使用する。 理容師国家試験を合格する技術力、理容師としてのスキルに必要な基礎知識を習得するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	理容師国家試験に合格できるだけの特に技術について習得する。そして就職してからの理容師としての基礎的な技術の習得を目指す。				
授 業 計 画					コ マ 数
1	ワインディング①				165
2	レディースカット①				21
3	ワインディング②				54
4	実務実習①(身だしなみ・挨拶)				6
5	実務実習②(掃除)				6
6	実務実習③(洗濯)				6
7	実務実習④(言葉遣い)				6
8	実務実習⑤(お迎え・お見送り)				6
9	実務実習⑥(カット準備)				6
10	実務実習⑦(カット片付け)				6
11	実務実習⑧(シャンプー準備・片付け)				6
12	実務実習⑨(総括)				12
13	ワインディング③				21
14	カット準備・シャンプー①				21
15	レディースカット②				9
16	シェービング				30
17	ミディアムカット				90

18	カット準備・シャンプー②	9
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲, 思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。 授業後は教科書を活用し、確実に技術を身につけて欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容技術理論Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他 (学生への要望等)		
① 国家試験に合格できる知識を習得して欲しい。 ② 反復練習を行うことで、個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。 ③ この技術を確実に身に着けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。		

授 科 目 業 名	理容実習2				
担 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗 安部敏亮	学 年	2	単 位 数	14
開 講 時 期	通 年	必修・選択	必修	授業区分	実習
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書は日本理容美容センター出版の「理容実習ⅠⅡ」及び「理容技術理論ⅠⅡ」を使用する。 理容師国家試験を必ず合格する技術力、理容師としてのスキルに必要な知識を1年次の理容実習を活かしながら習得するものである。				
授 業 の 到 達 目 標	理容師国家試験に合格できる技術について習得する。そして就職してからの理容師としての1年次以上の技術の習得を目指す。				
授 業 計 画					コマ数
1	ミディアムスタイル① 基礎刈				135
2	実務実習①(身だしなみ・挨拶)				3
3	実務実習②(掃除)				3
4	実務実習③(洗濯)				3
5	実務実習④(言葉遣い)				6
6	実務実習⑤(お迎え・お見送り)				6
7	実務実習⑥(カット準備・片付け)				3
8	実務実習⑧(シャンプー準備・片付け)				6
9	実務実習⑨(シェービング準備・片付け)				6
10	実務実習⑩(パーマ準備・片付け)				6
11	実務実習⑪(カラー準備・片付け)				6
12	実務実習⑫(総括)				12
13	シャンプー・シェービング				30
14	ミディアムスタイル② 基礎刈から指間刈まで				15
15	ミディアムスタイル③ 逆櫛、襟付け、仕上げ刈り、				45
16	ミディアムスタイル④ セニング、整髪、				15
17	国家試験練習① シェービングと顔面処置				30
18	国家試験練習② カットング及び整髪				60

19	国家試験練習③ 実技と衛生の総括	30
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。 授業後は教科書を活用し、確実に技術を身につけて欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容技術理論Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容技術理論Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習Ⅰ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
理容実習Ⅱ	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他 (学生への要望等)		
① 国家試験に合格できる知識を確実に習得して欲しい。 ② 反復練習を行うことで、個々の技術を早く習得し、また技術の幅も拡げて欲しい。 ③ この技術を確実に身に着けて、理容技術を発展的に実践できるようになって欲しい。		

授 業 名	情報技術 1				
担 当 教 員 名	上野景子	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義・演習
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	教科書はよくわかる「Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016 (FOM出版)」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり必要な情報技術を学ぶものである。				
授 業 の 到 達 目 標	理容業・美容業に必要な情報技術を学び、理容業・美容業の実務において実践で きる だけの実務毛力を身に着けることを目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1	情報モラルとセキュリティ				2
2	情報モラルとセキュリティ 個人情報の適切な取り扱い、				2
3	情報モラルとセキュリティ 著作権、ネット社会に潜む危険と対策、				2
4	情報モラルとセキュリティ メール、Web、SNS等				2
5	情報モラルとセキュリティ モバイル機器の活用と管理				2
6	OSとアプリケーション Windows 10の基本操作とアプリケーション				2
7	OSとアプリケーション ファイル管理、個人設定、設定と管理、インターネット				2
8	文章作成ソフト Word 2016				2
9	文章作成ソフト 文章作成ソフトのいろいろ (Word、ノートパッド、他)				2
10	文章作成ソフト 基本的な文書作成				4
11	文章作成ソフト 図や表の挿入				4
12	文章作成ソフト 装飾による表現方法				4
13	文章作成ソフト 表現力をアップする応用				4
14	文章作成ソフト ビジネス文章の書き方と種類				4
15	文章作成ソフト ビジネス文章作成演習				2
16	表計算ソフト EXCELのデータ入力とルール				2
17	表計算ソフト 表の作成				4
18	表計算ソフト 表の編集と印刷				2
19	表計算ソフト グラフの作成と挿入				2
20	表計算ソフト データベースと操作				2
21	表計算ソフト 複数のシート操作				4

22	表計算ソフト 関数	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。 授業後は自発的に復習をし、情報機器が”活用できる”ようにして欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016	FOM出版 (富士通エフ・オー・エム株式会社)	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
① 情報管理やモラルの大切さをしっかりと学び、日常から実践して欲しい。 ② 文章作成ソフトで文章の作成ができるようになって欲しい。来年度のプレゼン資料の作成へと続く。 ③ 表計算ソフトを利用して顧客管理や、実務での多様な管理業務に活用できるようになって欲しい。		

授 業 名	情報技術2				
担 当 教 員 名	上野景子	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	講義・演習
授業の概要	教科書はよくわかる「Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016 (FOM出版)」を使用する。 この授業は、理容美容の業を行うにあたり必要な情報技術を学ぶものである。				
授業の到達目標	理容業・美容業に必要な情報技術を学び、理容業・美容業の実務において実践できるだけの実務毛力を身に着けることを目標とする。				
授 業 計 画					コマ数
1	プレゼンテーションソフト	PowerPointについて			2
2	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーション資料の作成			4
3	プレゼンテーションソフト	オブジェクトの挿入			2
4	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションの全体構成			2
5	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションの動きを設定する			4
6	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーション資料の印刷			2
7	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションの流れと資料作成			4
8	プレゼンテーションソフト	プレゼンテーションの資料作成			4
9	プレゼンテーションソフト	自己PR資料の作成と実践発表			4
10	情報スキルアップ	研究レポートの作成方法			4
11	情報スキルアップ	ビジネスレポートの作成方法			4
12	情報スキルアップ	売上の集計と分析方法			4
13	情報スキルアップ	自分のセールスポイントを伝えるレポートの作成			4
14	情報スキルアップ	ゼミ研究旅行の行動計画表の作成			4
15	情報スキルアップ	クラブ活動を紹介するプレゼンの作成			4
16	情報スキルアップ	感動の一冊を伝えるプレゼンの作成			4
17	情報スキルアップ	総合演習			4

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
教科書を授業計画に従って授業前に読んでおくこと。 授業後はワークブック（問題集）を活用し、確実に学習する習慣をつけて欲しい。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 & Microsoft PowerPoint 2016	FOM出版（富士通エフ・オー・エム株式会社）	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
① プレゼンテーションソフトの活用方法を学びながら、プレゼンテーション技術を身につけて欲しい。 ② 演習をとおして、将来行うであろう多様な業務において情報機器を活用できるだけの情報スキルを高めて欲しい。		

授 科 目	業 名	エステティック1				
担 教 員	当 名	池田薫	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期		通年	必修・選択	必修	授業区分	実習
実 務 経 験	無し					
授 業 の 概 要	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 の 到 達 目 標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	エステティック概論	フェイシャルケアの基礎知識			2	
2.	ビデオ学習	ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・整肌ウィッグで			2	
3.	相モデル	ポイントメイク落とし・クレンジング・ふき取り・整肌ウィッグで			4	
4.	エステジュール説明	ブラシピーリング・スチームタオル・整肌			2	
5.	相モデル	ポイントメイク落とし～ブラシピーリング～整肌			4	
6.	エステティック機器概論				2	
7.	相モデル	ポイントメイク落とし～スチームタオル・スプレー・キッシング整肌			4	
8.	相モデル	ポイントメイク落とし～スプレー・キッシング・アイオニック整肌			4	
9.	エステティック概論				2	
10.	相モデル	ポイントメイク落とし～スプレー・キッシング・アイオニック整肌			4	
11.	オイルマッサージ概論				2	
12.	オイルマッサージ手技	ウィッグで			2	
13.	相モデル	ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・スチームタオル			8	
14.	相モデル	ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター			8	
15.	相モデル	ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター・海藻パック			4	
16.	相モデル	ポイントメイク落とし～ふき取り・オイルマッサージ・パター・シートパック			2	

17.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング塗布・クレンジング・ふき取り・スプレー・キッシング・アイオニック・オイルマッサージ・パター・スチームタオル・パック・整肌まで全行程	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1.5	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		
そ の 他（生徒への要望等）		
意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。		

授 科 目	業 名	エステティック2				
担 教 員	当 名	池田薫	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必修・選択	必修	授 業 区 分	実 習	
実 務 経 験	無し					
授 業 の 概 要	身体組織や器官の活動を助け身体内部の生理機能に働きかけることで新陳代謝を促し美しく健康的な状態をつくりだすさまざまな技術を理解、実践していく。					
授 業 の 到 達 目 標	身体や皮膚の生理に基づいた基本を理解し、正しい知識と理論に裏づけられた施術を繰り返し行うことで、スムーズで安全な手技を習得することが到達目標である。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	マッサージの基本手技 ボディケア技術 種類と特徴				2	
2.	有酸素運動・筋肉トレーニング・ストレッチングについて				2	
3.	ビデオ学習 ボディマッサージ（上肢背面） デモ				2	
4.	相モデル ボディマッサージ（上肢背面）				2	
5.	ボディマッサージ（下肢） デモ 相モデル				4	
6.	ボディマッサージ（上肢・下肢） 相モデル				4	
7.	フットケア カウンセリングシート作成				2	
8.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング				4	
9.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理（フットパドル）・保湿				4	
10.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理（フットパドル）・保湿				8	
11.	脱毛 ビデオ学習 デモ				2	
12.	脱毛 相モデル				8	
13.	相モデル ポイントメイク落とし・クレンジング塗布・クレンジング・ふき取り・スプレー・キッシング・アイオニック・オイルマッサージ・パター・スチームタオル・パック・整肌まで全行程				8	
14.	ボディマッサージ（上肢・下肢） 相モデル				4	

15.	フットケア フットバス・エナメル除去・ファイリング・キューティクル処理・角質処理(フットパドル)・保湿	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1	ウエイト 1
授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等)		
施術前に、テキストで手技手順を確認。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。		
参考書又は参考資料等		
滝川エステティックビデオフェイシャル&ボディ 日本理容美容教育センター出版エステティック		
そ の 他 (生徒への要望等)		
カウンセリング等でお客様の肌質を把握し、個々の肌質に合わせた技術の提供ができるようになってほしい。		

授 業 名	ネイル1				
担 当 教 員 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	通年	必修・選択	必修	授業区分	実習・講義
実 務 経 験	有り：JNA本部認定講師及びネイルサロン勤務				
授 業 の 概 要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。				
授 業 の 到 達 標 目	ジェルネイル検定初級、及び日本ネイリスト検定試験3級レベルの合格技術を修得する。正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。				
授 業 計 画					コマ数
1.	検品・道具の確認・接客マナー				2
2.	道具のセッティング・補充方法・ハンドの仕込み方法				2
3.	消毒管理・爪の削り方(ファイリング)・カット方法				2
4.	爪を美しく育むためのクリーンナップ方法				2
5.	消毒～クリーンナップまで(規定時間での練習)				4
6.	美しいカラーポリツシュの塗布方法				2
7.	消毒～カラーリングまで(規定時間での練習)				6
8.	サロンワークにおけるカラーリング方法				2
9.	ジェルネイルにおけるセッティングと用具用材・検定説明				1
10.	ジェルカラーリングの基礎手順				3
11.	技術及び知識のレベルの確認 フォローアップ				4
12.	検定におけるジェルアート				2
13.	ジェルタイム取り				8
14.	ジェル検定対策タイム取り				12
15.	アクリル絵の具を使用したアート方法				2
16.	指や爪の特性に応じジェルネイルの施術				2

17.	技術及び知識のレベルの確認 フォローアップ	4
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
1年次には、基礎知識や基礎的技術を中心に学んでいくが、今後はこの基礎技術をベースにして高度な技術を構成していく。よって、この基礎技術が未習熟であると今後の学習に影響してくるので 確実な技術習得をしてください。		

授 科 目 業 名	ネイル2				
担 教 員 当 名	旗生美由紀	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習 ・ 講 義
実 務 経 験	有り：JNA本部認定講師及びネイルサロン勤務				
授 業 の 概 要	日本ネイリスト協会発行のテキストを使用し、指先に関する正しい知識と技術、最新のネイル理論を習得する。				
授 業 の 到 達 標 目	ジェルネイル検定中級、及び日本ネイリスト検定試験2級レベルの合格技術を修得する。正しく安全に技術を行うための爪や体の知識の学習は勿論、相モデルを通してサービス業としての身だしなみや心得を身につける。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	検定取得についての基礎知識 ・ 練習における心構え				1
2.	基礎知識の確認 ・ フォローアップ				1
3.	衛生的なテーブルセッティング・ジェル検定中級レベルの技術工程				2
4.	ジェル検定中級レベルの技術練習				10
	A (安全なジェルのオフ方法)				
	B (ジェルイクステンションのリペア、正しいフォーム)				
	C (ジェルグラデーション・ジェルフレンチ)				
5.	ジェル検定上級レベルの技術練習				6
	A (ジェルイクステンションで5本揃えたフォーム作り)				
	B (ジェルチップオーバーレイ)				
	C (ジェルデザインイクステンション)				
6.	2級検定試験内容の技術練習				6
	A (チップ&ラップの正しい装着方法)				
7.	技術レベルの確認 フォローアップ				4
8.	アートデザインの構成・時代にあった作品作り				5
9.	アートの大会に向けての作品作り				6
10.	技術競技大会・検定試験対策 (技術)				4
11.	検定試験対策 (筆記)				1
12.	検定試験で求められる技術レベルの確認				6
13.	サロンワーク対策				3

14.	卒業作品制作	5
評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
JNAテクニカルシステム ベーシック	NPO法人 日本ネイリスト協会	
JNAテクニカルシステム ジェルネイル	NPO法人 日本ネイリスト協会	
参考書又は参考資料等		
NAILMAX（株式会社ミーティア）、NAILVENUS（株式会社 実業之日本社）		
その他、授業中に適宜、資料を配布する。		
そ の 他（生徒への要望等）		
<p>1年次には、基礎知識や基礎的技術を中心に学んでいくが、今後はこの基礎技術をベースにして高度な技術を構成していく。よって、この基礎技術が未習熟であると今後の学習に影響するので確実な技術習得をしてください。</p> <p>1年次に学んだ基礎を元に高レベルな技術を習得する。</p> <p>2年次の授業では自分で考える力が必要となるので、その技術を学ぶこと、技術に対する応用力や発揮力を養っていく。</p>		

授 科 目 業 名	メイクアップ（理容科）				
担 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗 安部敬亮	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	通 年	必 修 ・ 選 択	必 修	授 業 区 分	実 習
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	道具のセッティング、作業効率の向上と衛生を理解する。また、一つ一つの技術の目的と効果を理解し、技術習得をする。				
授 業 の 到 達 目 標	メイクアップの基本技術を習得し、施術時間の範囲内での仕上りのバランスの向上、接客術の向上を目標とする。				
授 業 計 画					コ マ 数
1.	メイク道具の名称、使用目的を理解する 化粧品の定義、スキンケアの必要性				3
2.	スキンケア～ベースメイクの手順（相モデル）				3
3.	ポイントメイク（アイメイク）（相モデル）				3
4.	リップメイク・ブラッシュオンメイク（相モデル）				3
5.	テストⅠ【ベーシック】（相モデル）				3
6.	ベースメイクの多色塗り				3
7.	アイメイク（つけまつ毛テクニック）・チークのバリエーション				3
8.	トータルメイク（質感とイメージ）（相モデル）				3
9.	バリエーションメイクデザイン画作成・テスト前リハーサル				3
10.	テストⅡ【バリエーション】（相モデル）				3
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
施術前後に配布テキストで手技手順を反復練習をし着実な技術習得をして欲しい。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。					
参考書又は参考資料等					

授業中に適宜、その他の資料を配布する。
授業内でメイクアップの技術DVDを使用する

そ の 他（生徒への要望等）

メイクアップを通して、感性・創造性を学んでほしい。

授 業 名	総合技術（スキルアップ）				
担 当 教 員 名	向井美香	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必修・選択	選択	授業区分	実習
実務経験	有り：理容師として勤務				
授業の概要	本授業は、理容実習で身につけた技術を、さらに熟練したレベルへ導くものである。				
授業の到達目標	理容の基礎技術が網羅されたスタンダードヘアについてより深く追求していく。ミディアムカット・ドライヤー仕上げを、他者に解説し実演できるレベルが目標。				
授 業 計 画					コマ数
1.	カット技術の確度向上（姿勢と技術） 準備、立ち位置、目線の位置、観察法（事前観察・事後観察）				1
2.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 分髪方法、毛髪の弾力と重み、髪質、髪量、頭の形、顔の形、				1
3.	ミディアムヘア（中髪型）の構成要件と実際 クリッパーライン、接合線、毛流（分髪、前額髪際、髪際隅部、側頭部）				1
4.	カット技術の確度向上（櫛、鋏、クリッパーの操作と運行） 基準剪髪、斜行運行・斜行剪髪、				3
5.	カット技術の確度向上（基礎刈） 直上線剪髪、直線剪髪、固定刈、すくい刈、連続刈、押し刈、指間刈、				3
6.	カット技術の確度向上（仕上げ刈） 線とぼかし、線と面、回し刈り、両手直鋏、片手直鋏、梳き刈、襟鋏、				3
7.	カット技術の確度向上（梳き刈） セニング技法、毛量調整、質感調整、毛髪の立ち上げへの応用、				2
8.	ドライヤー技術 水分量、熱量、風量、ブラシワークの原理と実際				1
9.	ドライヤー技術 面を作る（根本の矯正、高く、低く、接合部処理）				3
10.	ドライヤー技術 同じ平面で毛の流れを作る				3
11.	ドライヤー技術 整髪技術（整髪料の塗布、ブラッシング、コーミング等）				3
12.	ドライヤー技術 規定時間10分での反復練習				2
13.	カット15分、セニング5分、ドライヤー10分、整髪5分				3
14.	全体を通しての総合技術レベルの確認				1
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。

使用テキスト

書籍名	出版社
理容技術理論 1	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容実習 1	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

この教科課目は理容実習で学んだ技術を基本に、より高い技術力を身につけるものである。よって高い技術を探求していく強い気持ちが必要である。今現在の技術レベルに満足することなく研鑽して行って欲しい。

授 科 目	業 名	総合技術（スキルアップ）			
担 教 員 名	向井美香	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必修・選択	選択	授業区分	実習
実 務 経 験	有り：理容師として勤務				
授業の概要	本授業は、理容実習で身につけた技術を、さらに熟練したレベルへ導くものである。				
授業の到達 目 標	理容の基礎技術が網羅されたスタンダードヘアについてより深く追求していく。 ミディアムカット・ドライヤー仕上げを、他者に解説し実演できるレベルが目標。				
授 業 計 画					コマ数
1.	デザインヘアカットの用具の持ち方と操作				1
2.	ブロッキング①ワンリングス②グラデーション③レイヤー④スクエア				1
3.	デザインカットの基礎技術 ワンリングス バック、サイド				3
4.	デザインカットの基礎技術 アウトサイドグラデーション 第1ブロック、第2ブロック				2
5.	デザインカットの基礎技術 アウトサイドグラデーション 第3ブロック、第4ブロック				2
6.	デザインカットの基礎技術 レイヤー トップ、クラウン、バック、サイド				3
7.	デザインカットの基礎技術 スクエア トップ、クラウン、バック、サイド				2
8.	メンズデザインカット（ベースカット） サイド、ネープ、バック、トップ				1
9.	メンズデザインカット質感調整（チョップカット、ブリックカット） サイド、ネープ、バック、トップ				3
10.	メンズデザインカット質感調整（スライドカット、セニング） サイド、ネープ、バック、トップ				3
11.	パーマメントウエービング ワインディング①ノンシステム②ハーフシステム③ロングシステム				3
12.	パーマメントウエービング 薬液処理				2
13.	パーマメントウエービング ヘアセット				2
14.	全体を通しての総合技術レベルの確認				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。

使用テキスト

書籍名	出版社
理容技術理論 1	公益社団法人日本理容美容教育センター
理容実習 1	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

この教科科目は理容実習で学んだ技術を基本に、より高い技術力を身につけるものである。
よって高い技術を探求していく強い気持ちが必要である。
今現在の技術レベルに満足することなく研鑽して行って欲しい。

授 業 名	総合技術（コンクール専科）				
担 当 教 員 名	後藤廣一朗	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必修・選択	選択	授業区分	実習
授業の概要	学生全体を平等指導する通常実習と違い、各種コンクールで表彰台を目指すことに特化した授業内容を展開する。				
授業の到達目標	出場するコンクール特に学生技術大会（理美容甲子園）での受賞				
授 業 計 画					コマ数
1.	学生技術大会出場種目における基本技術の見直し				6
2.	学生技術大会出場種目における得点項目の強化				6
3.	学生技術大会出場種目における失点項目の強化				6
4.	学生技術大会出場種目における失点項目の強化				6
5.	学生技術大会出場種目における失点項目の強化				6
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験, 授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
実習外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
参考書又は参考資料等					
そ の 他（生徒への要望等）					
2年という限られた年月を勝利という目標達成の為に有意義に使う意識を持続させて頂きたい。					

授 科 目	業 名	総合技術（コンクール専科）				
担 教 員	当 名	後藤廣一朗	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前 期	必修・選択	選 択	授 業 区 分	実 習	
実 務 経 験	有り：理容師として勤務					
授 業 の 概 要	学生全体を平等指導する通常実習と違い、各種コンクールで表彰台を目指すことに特化した授業内容を展開する。					
授 業 の 到 達 標 目	出場するコンクール特に学生技術大会（理美容甲子園）での受賞					
授 業 計 画						コマ数
1.	学生技術大会出場種目における基本技術の見直し					6
2.	学生技術大会出場種目における得点項目の強化					6
3.	学生技術大会出場種目における失点項目の強化					6
4.	学生技術大会出場種目における競技時間短縮					6
5.	学生技術大会出場種目における最終調整①					6
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)			3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
実習外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
参考書又は参考資料等						
そ の 他（生徒への要望等）						
2年という限られた年月を勝利という目標達成の為に有意義に使う意識を持続させて頂きたい。						

授 科 目 業 名	総合技術（エステティック）				
担 教 員 当 名	池田薫	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必修・選択	選択	授業区分	実習
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	身体の組織や器官の活動を助け身体内部の生理機能に働きかけることで新陳代謝を促し美しく健康的な状態をつくりだすさまざまな技術を理解、実践していく。				
授 業 の 到 達 標 目	デコルテ（胸板）の筋肉や僧帽筋への施術により血液供給、物質代謝を促進させ、離れたところからはたらきかけがフェイシャルケアの効果をさらに向上させることを実践し理解する。				
授 業 計 画					コマ数
1.	有酸素運動・筋肉トレーニング・ストレッチングについて				2
2.	ボディマッサージのポイント手技・デモ				2
3.	相モデル 背中でのマッサージにおける手の動きとポイント				4
4.	背中から首の軽擦・背筋の深めの軽擦				4
5.	背中から首全体の重手掌揉擦・背筋から肩甲骨まわりの手拳揉擦				4
6.	肩甲骨から僧帽筋の母指揉擦・首の牽引				4
7.	デコルテ全体の軽擦・肩の圧迫と僧帽筋へのつなぎ				4
8.	デコルテと僧帽筋の手拳・僧帽筋の圧迫法				2
9.	肩から僧帽筋へのらせん軽擦とつなぎ				2
10.	首の重手掌軽擦・デコルテと肩全体の軽擦				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
施術前に、テキストで手技手順を確認。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。					

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。

授 科 目	業 名	エステティック3（総合技術／エステティックⅡ）				
担 教 員	当 名	池田薫	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前 期	必修・選択	選 択	授 業 区 分	実 習	
実務経験	無し					
授業の概要	身体組織や器官の活動を助け身体内部の生理機能に働きかけることで新陳代謝を促し美しく健康的な状態をつくりだすさまざまな技術を理解、実践していく。					
授業の到達目標	デコルテ（胸板）の筋肉や僧帽筋への施術により血液供給、物質代謝を促進させ、離れたところからはたらきかけがフェイシャルケアの効果をさらに向上させることを実践し理解する。					
授 業 計 画					コマ数	
1.	ボディエステティックの目的と効果				3	
2.	ボディエステティックの全身の流れ				3	
3.	相モデルでの全身ボディオイルマッサージ				3	
4.	ボディトリートメント				3	
5.	ボディマッサージ				3	
6.	ボディマッサージ実技試験				3	
7.	フェイシャルデコルテ ビデオ学習				3	
8.	フェイシャルデコルテの流れ				3	
9.	フェイシャルデコルテマッサージ				3	
10.	フェイシャルデコルテ実技試験+A8:G19				3	
評価の3観点とウエイト						
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）		
ウエイト 1.5		ウエイト 1		ウエイト 1		
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）						
施術前に、テキストで手技手順を確認。						
使用テキスト						
書籍名			出版社			
授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。						

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

意識せずに自然に手技ができるところまで習熟して欲しい。

授 科 目 業 名	総合技術（ネイル1）				
担 教 員 当 名	旗生美由紀	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	必修・選択	選択	授業区分	実習
実 務 経 験	有り：JNA本部認定講師及びネイルサロン勤務				
授 業 の 概 要	日本ネイリスト協会発行のテキストを用いて検定試験2級に合格できる技術と知識の習得を行う。				
授 業 の 到 達 目 標	日本ネイリスト検定2級取得を目標に、プロとしてのネイルケアの技術を修得する。また、サロンワーク、及び技術競技大会で通用するアート技術を磨く。				
授 業 計 画					コマ数
1.	2級検定に求められるネイルケア技術				8
2.	検定のテーマに沿ったアート作成				2
3.	大会レベルのアート作成				2
4.	爪の補強、修復技術				2
5.	チップ&ラップの正しい装着方法				6
6.	2級検定技術の規定時間での練習				8
7.	1級検定レベルの技術工程				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 (定期試験、授業内テスト)		2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)		3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)	
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会		
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会		
参考書又は参考資料等					
その他、授業中に適宜、資料を配布する。					

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術レベルの要求だけでなく、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識を持って学んでほしい。

授 科 目 業 名	総合技術（ネイル2）				
担 教 員 当 名	旗生美由紀	学 年	2	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必修・選択	選択	授業区分	実習
実 務 経 験	有り：JNA本部認定講師及びネイルサロン勤務				
授 業 の 概 要	ネイルの基礎をしっかりと学んだ後、さらに技術を磨いて修得することのできる、プロテクニックを学ぶものである。				
授 業 の 到 達 標 目	高度な技術であるのは勿論、アート性にも優れた完成度の高い作品を、自分で考え、作りあげること为目标とする。 日本ネイリスト検定の中で最難関と言われる1級取得を目指す。				
授 業 計 画					コマ数
1.	アクリルスカルプチュアとは何か・理論				2
2.	アクリルスカルプチュアの安全な装着方法と手順				2
3.	アクリルスカルプチュアの作成				10
3.	チップオーバーレイの作成				4
3.	立体的な3Dアート・創造性を働かせる				6
3.	検定1級レベルの技術練習（規定時間での練習）				4
3.	エアブラシを使用した高度なアート技術				2
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1	
授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）					
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。					
使用テキスト					
書籍名			出版社		
JNAテクニカルシステム ベーシック			NPO法人 日本ネイリスト協会		
JNAテクニカルシステム ジェルネイル			NPO法人 日本ネイリスト協会		
参考書又は参考資料等					
その他、授業中に適宜、資料を配布する。					

そ の 他（生徒への要望等）

卒業後には、即実践できるようプロテクニクを学ぶ教科科目である。
プロに求められる技術指導を行っていくため、技術の取り組み方と共に、接客、立ち振る舞いについても指導するので、プロ意識をもって学んで欲しい。

授 業 名	理容総合技術（接遇1）				
担 当 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗	学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	前期	必修・選択	必修	授業区分	講義・演習
実 務 経 験	無し				
授 業 の 概 要	この授業は、理容師・美容師を養成するために必要な言葉遣いや立ち振る舞いなどをはじめ、接遇の基本的な部分を学習し、演習を行う。				
授 業 の 到 達 目 標	接客業のプロフェッショナルを目指す者に必要な接遇の力を身に付けさせる。				
授 業 計 画					コマ数
1.	第1章	なぜ接遇がひつようなのか			1
2.	第2章	社会人としての準備期間 ・働くとは ・プロの心構えとは			2
3.	第3章	基本行動訓練（基礎編） ・マナーの基本			1
4.		・役割認識 ・時間管理 ・秘密厳守			2
5.		・法令遵守（コンプライアンス）			2
6.		・礼儀 ・常識 ・マナー			3
7.	第4章	基本行動訓練（行動編） ・第一印象 ・メラビアンの法則			1
8.		・印象・挨拶（動作、挨拶言葉） ・お辞儀の仕方 ・表情 ・視線			5
9.		・身だしなみ（清潔感、機能的、控えめ） ・身だしなみとおしゃれ			1
10.		・言葉遣い ・言葉遣いの演習			2
11.		・電話対応 ・携帯電話 ・電話対応の演習			2
12.		・手紙 ・電子メール ・SNS ・目的に応じた文章（演習）			2
13.		・立ち振る舞い ・歩き方 ・立ち振る舞いと歩き方の演習			2
14.	第4章 管理	基本行動訓練（意識面） ・清掃 ・整理整頓 ・物品管理 ・自己			1
15.		・信用と信頼 ・約束と契約			1
16.		・指示・命令 ・報告（5W3H） ・相談			1
17.		・相手の立場に立つ ・礼をつくす ・感謝の気持ち			1
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

授業で学んだことを、日常生活において実践するよう意識する事。

使用テキスト

書籍名

出版社

授業中に適時資料を配布する。市販テキストは使用しない。

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

理容師・美容師は技術者を提供する職業であるとともに、サービス業でもある。
理解するだけでなく実践できてこそその接遇力である。
必要な時に自然に行えるよう、研鑽に努めて欲しい。

授 科 目 業 名	総合技術（作品制作1）理容				
担 当 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗	学 年	1	単 位 数	2
開 講 時 期	後期	必修・選択	必修	授業区分	実習
実 務 経 験	有り：理容師として勤務				
授業の概要	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学ぶ。				
授業の到達目標	1年間で学んだカット技術、カラー技術、ヘアセット技術を応用し作品を制作する。				
授 業 計 画					コマ数
1.	メンズスタイル考案（スタイル・カラー）	・展開図			6
2.	ブロック各の手順を知る	（長さ・パネルの引き出し方）			4
3.	ブロック各の手順を知る	（アンダーセクション・ミドルセクション）			2
4.	ブロック各の手順を知る	（サイド・トップ・フロント）			2
5.	全頭を切ってみる	・アウトライン（アンダーセクション・ミドルセクション）			6
6.	全頭を切ってみる	・アウトライン（サイド・トップ・フロント）			6
7.	全頭を切ってみる	・質感調整でチョップカット （アンダーセクション・ミドルセクション）			4
8.	全頭を切ってみる	・質感調整でチョップカット （サイド・トップ・フロント）			4
9.	全頭を切ってみる	・質感調整（セニング・ブリックカット・スライドカット）			6
10.	全頭を切ってみる	・改善点を踏まえて仕上げる			2
11.	ブリーチ				6
12.	カラー				6
13.	全頭を切ってみる	・カットとカラーが調和できているか仕上げる			2
14.	スタイリング				4
評価の3観点とウエイト					
1. 知識・理解 （定期試験、授業内テスト）		2. 関心・意欲・態度 （課題提出など）		3. 出席状況 （受講意欲、思考と演習など）	
ウエイト 1		ウエイト 1.5		ウエイト 1	

授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等）

授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。

使用テキスト

書籍名	出版社
理容実習1	公益社団法人日本理容美容教育センター

参考書又は参考資料等

授業中に適宜、その他の資料を配布する。

そ の 他（生徒への要望等）

- ① 基本のカット技術を応用しサロンワークで実践できるようになって欲しい。
- ② 「理論的に思考して技術練習を行う」ことで、個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。

授 業 名	理容総合技術（作品制作2）				
担 当 教 員 名	向井美香 後藤廣一朗	学 年	2	単 位 数	2
開 講 時 期	後期	必修・選択	必修	授業区分	実習
授業の概要	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学ぶ。				
授業の到達目標	作品制作を通して創造性を高めデザイン力を身に付ける。				
授 業 計 画					コマ数
1.	ヘアスタイル考案				2
2.	作品制作イメージづくり ・デッサン ・展開図				4
3.	ブロック各の手順を知る （長さ・パネルの引き出し方・）				2
4.	ブロック各の手順を知る （アンダーセクション・ミドルセクション）				2
5.	ブロック各の手順を知る （サイド・トップ・フロント）				2
6.	全頭を切ってみる アウトライン（アンダーセクション・ミドルセクション）				6
7.	全頭を切ってみる アウトライン（サイド・トップ・フロント）				6
8.	全頭を切ってみる 質感調整でチョップカット（アンダーセクション・ミドルセクション）				2
9.	全頭を切ってみる 質感調整でチョップカット（サイド・トップ・フロント）				2
10.	全頭を切ってみる 質感調整でセニング（アンダーセクション・ミドルセクション）				2
11.	全頭を切ってみる 質感調整でセニング（サイド・トップ・フロント）				2
12.	全頭を切ってみる 質感調整でブリックカット、スライドカット（アンダーセクション・ミドルセクション）				2
13.	全頭を切ってみる 質感調整でブリックカット、スライドカット（サイド・トップ・フロント）				2
14.	全頭を切ってみる 事後観察 仕上げ				2
15.	ブリーチ （塗布むら・仕上がチェック）				8
16.	ホイルワーク ウィーピング （デザイン・スライス）				4
17.	オンカラー （塗布ムラチェック・発色チェック）				6
18.	ヘアセット				4

評価の3観点とウエイト		
1. 知識・理解 (定期試験, 授業内テスト)	2. 関心・意欲・態度 (課題提出など)	3. 出席状況 (受講意欲、思考と演習など)
ウエイト 1	ウエイト 1.5	ウエイト 1
授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等)		
授業で学んだ技術を反復練習し、着実な技術習得に努めること。		
使用テキスト		
書籍名	出版社	
理容実習1	公益社団法人日本理容美容教育センター	
参考書又は参考資料等		
授業中に適宜、その他の資料を配布する。		
そ の 他 (生徒への要望等)		
① 基本のカット技術を応用しサロンワークで実践できるようになって欲しい。 ② この技術を確実に身に付けて個々の技術を早く習得することに役立てて欲しい。		